

リハビリテーション科

研修目標

慢性疾患患者や高齢患者の管理上の要点を知り、リハビリテーションと在宅医療、社会復帰の計画立案ができる。

- ①廃用症候群（拘縮、廃用性筋萎縮、廃用性骨萎縮、起立性低血圧、廃用性心肺機能低下等）及びその他の二次合併症（褥創、異所性骨化、肩関節亜脱臼、反張膝等）の発生機構をよく知り、それらの予防・治療法を知り、適切な指示が出せる。
- ②早期リハビリテーション開始の重要性をよく認識し、その実際的な進め方の指示が出せる。
- ③リハビリテーションの適応を知り、リスク管理を行いつつ、リハビリテーションを進めていくことができる。
- ④家庭復帰・社会復帰の計画立案ができる。
- ⑤外来及び在宅医療においてリハビリテーション的見地をもって、活発で有意義な生活を目指した生活指導（家庭指導を含む）ができる。
- ⑥障害に対する心理的適応への援助ができる。

具体的な目標

- ①リハビリテーション的診療法
 - a 関節可動域テスト
 - b 徒手筋力テスト
 - c 片麻痺機能テスト
 - d 日常生活動作テスト（バーゼル、インデックスを含む）
- ②リハビリテーション基本技術
 - a 正しい体位と体位変換
 - b 関節可動域訓練（特に他動運動）
 - c 筋力維持、増強訓練
 - d 座位耐性訓練（開始基準、中止基準を含む）
 - e 床上動作（寝返り、起き上がり）訓練
 - f 移乗動作（特にベッド→車椅子、車椅子→便器）
 - g 座位、立位バランス訓練（立ち上がり動作訓練を含む）
 - h 歩行訓練（平行棒から屋外歩行まで）
 - i 装具の処方基準、適合測定、装着訓練
 - j 杖、松葉杖、歩行器の選択基準
 - k 日常生活動作自立訓練
 - l 自助具の選択基準
 - m 代償能力の開発（利き手交換訓練など）
 - n 病棟生活の指導（日中の臥位を避け、座位時間の延長を図る等）
- ③家庭復帰、社会復帰に向けての指導
 - a 在宅家庭指導（寝たきり化を防ぐ生活の活発化）
 - b 家族に対する介助法の指導
 - c 社会復帰、職場復帰の時期の判断
 - d 家事動作の訓練
 - e 家屋調査、改造指導

f 福祉制度、社会資源の利用法と指導

④リハビリテーションスタッフとの協調・協力、チーム医療

- a 理学療法士、作業療法士、言語療法士、ソーシャルワーカー等の業務内容を知り、リハビリテーションの具体的方針につき、ともに検討する。
- b これらの訓練にかかわるリスク管理を行う
- c 以上を踏まえ、理学療法、作業療法の指示・処方出し方を学ぶ
- d リハビリテーション専門医療施設（療育施設を含む）に患者を紹介する必要性の判断基準を学ぶ。